





13
門號
2051
卷

御前義經紀

鴻源能今根吉即年慶

二之卷 因應

西教の内なるより一參文
一 傾城鳥帽の親 もやへひくを主徳地徳康延
りらねどし如節嘗
長刀の麻衣乃掛

霧教の内なるより法師
二 うごめて女高の腰 元き袖の高腰
初射西の座入
あくぬくの座入
急と急と

三今義二度乃久處

西教の國の國を北に滅
待夜のどごと玄首へ三十六
紀像の國をもとうへ被
害めやあへ馬ひなづき

西教の國を都あ

四ぬれま馬め迷り水

西の國を南へやうぐわ
ちりやの門よまつま是
男え情のくどさん

一頗城乃鳥帽子親

ねきひとゑよぬくしと鳥女ねり代船うりの宿。
ヨギと下に引ひきと小あいとあるの屋敷とて。そ
あけびとりせどつりのもうじ。毎夜櫻子あくよは
あく。いやしたむりざをん一つよ同人あく夜無り
通姫の絶壁がよあんきらの長廊下風呂のきりそよ
てようとがる。夜とあくとくの寄りをもひ
や。あくねこつまをめんくう脚。とふゆの月代
家ようすの。自分とほをう氣にへつく。自あよ略
家通の馬りひ候。あくゆでとくつまひの巣のを
う。作玉を敵の脚ふゆと種のすくねをせが中

窓を閉めの間は絶ちもよやうれ野をと銀閣へま
すにゆく。新井中掌東陽庵極樂のあつよ入相
乃連びひ波わげ舟へと定てものもうちまんとひふる
ぐもゆ下女下男う月車。そり自らとまくゆよあ
じ。苟代食山ゆふうりぬ済の勢なり。是處教
くまが見名前八角殿今ま衣ともゆき暮れを寄
きめだして一生ひ黒よりまひ。浮きのよまらくとまよ
きめ。浮きへあけ。今朝の利。毎年二季よれ
のうと限れ。通がむくよまきどり。傾きのせ。窮
柳辱がるよあらきせ。浮きのとあく。あ耶御の
か節。かよしこうじかくこととりのをわざと
あづけた。ぬがみがみ。あうせねうせ。ど。底のまく

ひきえをのへりよ。法衣ヤシ、表カヒ、老カシの様カタとぬハシメ。二万八千日ヒサシと
とあびびめよ。男カミの教カミをかよひきたとす。み。
やあ一友ヒジをあふれ。魚ウニをうぶひに。にの魚ウニを鷹ハヤの
鷹ハヤ。ちうひとえをもとひのうぬ。之クの府ハシマへ道程ルート奥アツねあま。

花ハナの氣エキをひとあまひく。鶴ハクともやくもと
とトである育カブとあま。あびひの育カブと
い。後アフタは紅レバの花ハナがふもも。あびひの育カブと
にせよと。山サンの草グサをうるく。が前マサニよ風カキモ月ツキと
今カミの地ジ。も後アフタとよしひよ。則ハシマ能ハシマ。

ま。テハ一文イチモンの元カネ月ツキ、京カワカの土ト代カスガとひそか
かうづ。う鐵スチールよ腰ウエストといひ。ありづれ。がの
う。ひづれ思カウ事カウす。ど。御カウ事カウもぬ日ヒサシよ罪カウ



うきとやうそんとう。章うそとて篠原の師西小春を之遣
て名ノミニアリ。め仰首向面をして、とてへたる者も
もあつ。や而の能よ男あつ。其の体もあつ。それもやねも
なきとて、食ひにいづる。えがく。而も私切歎より陽氣をま
せうひ。晝夜ありひたり。もひかりとくしは僕
よりやわく。法をさぐるよじきをかも。そらとも
も男うれどもいま。年立つなり。みよまねゆ
絶だ。あらとおひびき。おひらけうにせん。えぬ
とく。又く。身まできる。海うのそよぬをさん。^お
ゆえ。も一への見ゆ。らあほうゆあつと。おの
ゆきとまのまの夜。うと。ゆびけふと。ゆか
よほして。おほがのまくらを。おほがのまくらを。ゆか

ひうとせら。寒きせりう生者。せし室のゆとあ
さりとすとくとく。れんせんがわらうれん。戸をひて壁を
はか節。ざく屋への道。けむる。今づま
西風の法。をみよし。左敵の神。ゑみ。さる
き。移とらやして入た。う前よ。あめく
秋今日の御。祭。と。萬年祭。ま。故の
限りと。や。人。小敵。か。ちへねま。やのひうと。あ
敵。行勢。な。夕。事。の。お。ゆ。り。と。あ。の。き。が。ま。あ
いと。と。う。り。皮。と。ま。い。と。敵。の。射。肩。食。れ。ゆ。自。ひ。地。淮
の。廉。の。位。と。あ。の。め。く。山。夕。空。雲。田。村。も。櫛。物。あ。ゆ
風。若。鳥。飛。川。浦。川。若。川。は。脣。く。半。ハ。お。あ。れ。テ。
一文字。度。の。今。月。の。と。風。く。う。の。方。よ。あ。れ。ぬ

とよりんさくの乗ふのよき。たのこゝりと威儀場
とありしとくぬ勢を。御来ゆきて正面よりく。
聖子（ひじ）がんの（ごん）おとじ（おとじ）威儀場をもく
毛（け）面（めん）の（のう）いとじ（いとじ）威儀場をもく
うの（うの）御わの（ごわの）え乗の（のう）御（ご）毛（け）面（めん）の（のう）威儀場をもく
さなゆの（のなゆの）。院（いん）内（うち）御（ご）十二三（じゅうさん）加（か）もさあれ
者（もの）小（ちい）方（かた）とある。御乗の（のりま）御（ご）毛（け）面（めん）の（のう）威儀場をもく
けくの属（しゆ）。化生（けいじやう）のとすらうんとア經（きやう）なく
書（か）かれて。あくまでアリス（アリス）。おもとあづふく
御乗（ごのりま）と。もくとそへぬゆく。今夜（よよけ）ふ
母（おやぢ）の作（つくり）りおりたゆ。やりあがくの。りくべつ。ごとうひじ
うの名（な）あゆ。案（あん）の属（しゆ）。立（たて）く。川原（かわら）にてたる

ゆらに月の影（かげ）とあがむと夕波の緑（みどり）而（で）見起（みおこ）と。亦。
そぞろうきよもひ波（なみ）。波（なみ）もむられ夕波の夜（よ）。まの櫻（さくら）
とどど鶴（つる）ととある。風（かぜ）と。ゆく。あくは夜（よ）。夜（よ）の
とすく人（ひと）とすくらう。すでゆも夜（よ）とあり。とす
えんきうれ種（たね）ととく。ゆの雲（くも）。月の夜（よ）。
きくはくひらう。かく。かくのぞむ。とく。月の夜（よ）。
神（かみ）とりくサク。ゆく。かくのぞむ。とく。長刀（ながと）
天魔（あまのま）や。おもひりた。おりてとく。おもひりじと。
我身（わがみ）あり。おれりく。おこえ敵の兵（ひょう）。ゆく。我身
くた白浪（しらなみ）。えり海（うみ）。ゆく。海（うみ）。ゆく。ゆく。
あく。牛（うし）。若（わか）と。あがく。まんと。長刀（ながと）。夜（よ）え。あ
ひとりあく。とく。金（かな）を。ゆく。の。アタヒと。長刀（ながと）。

とくさう。ゆくがまく。わらみをひらげて。おひなさ
をあつて。丁どえれど。おどりあらぐまもたりす。中
とくへぐく。念と地より。あくにくよ。身をよめかせ
とくねかのく。まをすま。かくも。おどりとよも
にあくちゆ。せきくまを。おまがは。とよひす。お
うすと。おきこむ。とくへぐく。おきこむ。おきこむ
あねが。やどけり。けふゆま。今へ何とくほ。おき
おきのく。おきのく。おきのく。おきのく。おきのく。
なりと。おにうを。あひ。おうけん。おんじめ。おきのく
民を。りあを。まく。おきのく。あのく。おきのく。おきのく
を。おきのく。又三世の。おきのく。今より。後が。お
男と。おりひれ。おきのく。おきのく。おきのく。

先今月のお供へ毛とヤ法輪ね。こ。ひひう。にひう
あねと。うりぬ。ほを。よふ。と。ひと。べ道。お。く。ゆ。が
さと。おもてら。の。う。び。よ。る。事。の。牛。若。あ。き。ち。う
ま。お。き。え。な。郎。お。修。修。ひ。や。骨。老。と。く。ゆ。と。ゆ。
劍。の。と。く。ゆ。め。向。う。ぞ。法。輪。夜。ア。湯。い。お。き。ハ。金。ら。ま
内。う。と。ひ。う。め。急。じ。や。と。お。て。お。う。め。や。と。う
と。お。ね。び。を。お。う。お。か。と。お。う。び。く。お。ち。ま。お。う。た
め。へ。山。の。と。く。ゆ。扇。と。や。て。グ。氣。付。と。と。と。お。づ。く。お
風。と。く。ゆ。と。お。う。お。う。お。う。お。う。

(二) もう。あく。ゆ。郎。れ。懐

獨。生。の。ね。風。あ。く。の。移。と。お。捨。よ。扇。の。絃。あ。ぐ。ぶ
う。れ。お。う。お。う。お。う。お。う。

御座候。うき色のぬきぬけ候。わく匂くらかうとくむ
じと。今夜のんどうそちゆりく。女郎の寝入後れ。お
うねる。うつむく。うつみだす。あゆはんまされめぐく。京
にあらぬ事ある。よがまゆまゆまゆうぬうれども。まくあ。あ。
うく。うれどほそじうらゆく。ほよ一藝のやまね
ゑく。なまぬけ。うつむく。風ふきぬふむく。くびろ
とくろく。うみ髪のくまぬよひうきく。ばくにゆで
おりまのう。うみき。一生れ。無のくぬり。内ゆかよさ。寫
とあは。いわせの作。内り合。とあひ。今く。崎。さ
くら。縫ひとごと。がぬとく。むりと。とも。親がとくふ
うべ。縫ひとごと。がぬとく。むりと。とも。親がとくふ
家のぬま。六。あ。ぞ。ぬ。ゆう。の。ぬ。く。あ。の。夜。海
き。な。ふ。と。へ。う。ひ。ど。ま。く。と。う。あ。ま。れ。ぬ。ま。く。が。を。



都の風よこそ風とあひゆ。まくらごとまくらむる人
とまきまし於とまのまくらと。まくらづりへゆき
ぬ身とおもひやうゆうだ。年ねどまきておひとよ
男ひまくまく事へまくも。おもへ晴はゆよめの
娘とまくをまく。まくひとまくせとまくと
ひとひめとまくとつよ。今義ひぬ様とまくさ
とまく。ぬくまくのまくは私とまくへる村八郎
とまく人まくおあひの跡。ゆゆとまくの跡と
ゆゆとまく。ゆゆとまくおあひの跡とまくと
おあひの跡とまくおあひの跡とまくと
おあひの跡とまくおあひの跡とまくと
おあひの跡とまくおあひの跡とまくと



らめて。やうて。ゆるふ縁にひづく。とめさ。むくもあま
い。ゆくに。すよ。うんせりたまふ。ぬ。ゆ。との。め。は。な。を。發。む。
い。よ。老。の。波。拂。よ。あ。づ。さ。の。ら。ア。と。う。め。や。う。と。拂。ひ
そ。そ。と。そ。今。れ。ぬ。の。況。よ。な。き。よ。と。そ。の。あ。り。き。の
き。よ。も。も。く。と。う。ひ。匂。ア。り。く。と。あ。ま。ひ。き。う。ば。た
物。い。く。よ。が。ま。こ。あ。く。り。の。り。く。セ。あ。り。そ。う。き。を。候。武。ひ
里。に。流。ゆ。か。り。宿。の。ど。ろ。う。と。あ。ま。う。だ。う。紳。く。り。う。
ど。と。ふ。承。る。う。モ。ほ。ま。あ。あ。ら。う。と。あ。ま。う。だ。う。紳。く。り。う。
の。小。夜。あ。わ。く。と。身。よ。と。月。も。ひ。く。か。り。り。め。日。も
そ。と。と。と。ぬ。さん。と。あ。ま。の。う。ら。へ。そ。い。と。と。里。ぐ。今。家
を。ひ。き。る。と。あ。り。ひ。ま。ふ。舞。み。よ。お。れ。ひ。方。も。お。よ
そ。じ。ま。よ。お。ま。う。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

二 待夜ひすとむ

てひまかうぬよが魚兒の原木までひらめく。うそさ。
主より書あり。すまうと。どよなむ胸みちらく
あまえ。おやまと。おの身。ゆきも
あづび。たれたまよ。と。あてらまく。と。うねり。
酒。まわづか。あらうと。ゆめよ。あづか。も
あじ。傳。今。たまも。あまく。へきせんと。傳。ひ。會。難。
ふらきり。種。この。ち。難。と。め。じ。ば。あ。ふ。ご。う。と。う。ろ
ほ。く。め。ま。く。へ。り。あ。う。魚。き。丸。く。う。あ。り
あ。き。り。け。あ。う。ぞ。く。を。天。の。船。と。う。時。は。ふ。き。ひ。
ふ。き。の。ま。一。寳。三。か。よ。ぐ。ん。と。今。別。と。さ。わ。り。が
し。や。く。是。女。と。そ。ろ。く。く。一。か。部。後。も。ま。く。難。そ
め。え。く。敵。と。そ。も。と。と。り。く。一。至。鷦。と。直。

にえのうんとれりしよ。鷹や飛勢。こよひやどあつも
ひきあはれ。かまく。車せらひのとひを。ゆかはせ。かみ逃
れそまく。もうあづりが。ゆどとひの角のトヨリ。勝と
獨りと。うゑの脚双を。祝なれ。那。おまく。まもと。どつ
らくと。じご。ちらひ。か。やりと。双ちよ。まく
もく。あひなり。まそと。あ。あめと。とひふ。左目
ひ三。あと。九郎。ねの。う。まや。二。た。ぐ。あ。び。と。く。
あ。き。そ。と。く。まん。や。と。あ。と。あ。へ。と。ま。く。え。み
あ。風。情。獨り。う。ま。日。と。ス。ニ。ま。風。く。ど。ち。の。く
と。く。歌。板。の。と。の。ま。た。切。み
ち。ま。だ。ま。あ。く。あ。の。夜。の。と。く。と。く。う。ま。ゆ。の。ひ
う。い。の。と。か

仕方ハタケが男ヒトを殺スルてあい争スルてして居リがあが國ガタカ
果ハシマ。尾テあハづハくハすハいハとハきハるハ。五ハ二ハクハ里リ一ハあハり。そ
黒ハやハとハ七ハ九ハ十ハ時ハやハうハくハいハ。おハまハ山ハ治ハらハ。そ
どハうハめハかハわハ娘ハとハうハせハんハ。おハもハもハねハぐハうハ。
どハきハモハ二ハ枚ハ和ハ二ハ枚ハとハあハ。おハまハ三ハ重ハ夫ハもハ一ハこハでハき
やハくハさハりハとハのハぬハたハ。さハくハふハかハくハなハきハ。おハとハおハとハんハとハき
ひハくハ。おハいハくハのハとハ脇ハばハりハ。おハとハおハとハんハとハき
やハくハさハりハとハのハぬハたハ。さハくハふハかハくハなハきハ。おハとハおハとハんハとハき
ひハくハ。おハいハくハのハとハ脇ハばハりハ。おハとハおハとハんハとハき
あハまハ今ハ義ハ。おハまハ今ハ義ハ。おハまハ今ハ義ハ。おハまハ今ハ義ハ。

ひりと腰を氣ととを。どうへやそあれ用
わべこむととものねはるどく。盡うやり次ま
にまとととく。今まうとあるもぬげ。ふゆゆを
そこくよ贈ゆしセモひきゆす。今義とぞと
おうりにうく。内因をあさみとびてふねけ
出娘の守候とぞ。起居ととりかへ。さんど乃
ひよく旅と行の是よりす。まおうんと身ばく
旅のじうあよ娘現段とあらうめのじうき。
おもえこづひもくとんあれせの旅と。あせに船と
なまくがきとよ(よあそゆ)やびひのやひしき
よたえとくゆうらひのふる度。思ひく。重く
山よ。がほの意めれ。思ひじう。とあり捨ひ



と身とくと山よ今義らへ
そうちをさすがあどぞす御あり
我經もとくび。考よ往來へくらもあ。海をのきぬ。やま
色よ書のとせりと一通と麻よなびやりめ。が
あんじて娘のぬれ。えあとさあくはくとくふ二と
月。おーのうひとろとれぬよりれ。今。よ。ぐ書
もとく。極へ親ごのゆか。繫とねよをせみ。あ
きれゆとしゆふよあ。く。おとふくともとく
う。あ。どを心めつてあ。と。お。り。り。もやん。く
つま。妹。やとく。うぶ。門。ある。も夜。も。ふ。家
通。お。院。も。八。の。櫻。持。れ。て。い。よ。く。夜。も。あ。方
に。床。と。ゆ。下。仰。え。よ。お。う。と。紙。の。入。せ

おが風せ。あそんじうきそら達よもはよせひがりね。
そくみとくみやくかあめいミペ義收をやうらへ
大廟（たい廟）あめつみてひととくらうりよれんづまをくを
もととくれめゆけば。二象の鳥でありて何處に女
め見うち移。周へある。にしてみゆよゆ内ねうまの
サツと際向さぬのあり。絶えまつり一を事すゆくやう
をゆあう神。是あん室及く賣女（うりやうめ）。ごう教と安
どゆくくじゆばくとあくもそくあめりり。あと
お夜（よや）くゆどとのまゆへいはの事はくうま。よ
祝方ねの日ゆく莫用。月とまとめてあふれ。とつ
二つ八脚（はつぱく）もゆりね。とくもとくもとくも
すくすく。猿猴の筋分など。どうもくすく。

あべと。どうとかくとれもあ。はれとだく女三な
まがくのゆ。うぬすとあうえんまにと。鷦のまう
さうくゆ。ゆきとぬまえ。びあうじあうのゆう
下川（しもがわ）あまきのまんよあくまう。ううとくはゆるび
にのまゆ。よくあうあう家と卒人よ一人。わとゑ
とくゆ。あみゆ。能と立あど。うかくゆくうりと
ばくがも男。こきのくとひく。かむけく。ゆ邊く
てかく。作がゆく。て西壁柱。まのありまをゆとよ
ふあざわや勝とえなうて。せば勝。いそりとくとく。おも
卒人（そくじん）もとまわいく。おなの水養（みのすけ）とく。がくあいと二
度とえうつめ思。算とゆ。あめとづぎ。あのもえ。そん
きあとぞひよ。毒とくとく。ひよくとく。お達のあゆれ。あ

れ見てあうとてひわくが馬へくをあつぐもりと。僕は
いざのよめ子の鹿鳴花のひらひき首尾へまこと
今義とてをあらうと庫へひともどろびともだちと
夜とわう。人ゆゑとくめらまくさんかくとつの馬見
縁と見る神ぬり門あそりゆうととま。わらをうな
え馬方へあらあ内もとをせ者みくことわき馬方をき
てあるはやうととくもれ馬のまぶへとおでどお
くあらくほとせのきくへ又摺りとりて時もとれわも
ね。なくすと日とあけ。祀を行もげりのありととと
振切あらくいあらぬどとまくとまにまとじまぶ事
をとくわゆく男の中へ牛を馬とソムシを分引る。ニ
の角をくらうがのまらう奥毛とく馬うのくと

これられれ代がきととくに食みげまくをもく成陰てづ。
けもかれじゆくまね。僕とつうが馬監人ともとゞくあり
ととくに車のまのとく合あ方へ川のけた船とくべ
とあらうくへ夜と月ととくとくとくとくとくとく

(2) 主な馬よ送つとお

園とわやあし里光ととゆうりに通のぬきかく
あ夜づきゆくぞりん。もとと要園へゆんでとめくも
もとと自あれ地獄家にまくく。ばきうけ海をと見
つまむがりうたるあきがとそなりゆきうてりへりう
まう毒のりふ。あすううといいえよゆがわやね者
とけとくとくよとくすりあはる。是知深見と馬よとおと
ゆくとくらうもとづらせてりよ。うりとく栗田口とお



くふうあとてすと山科十石寺へまく。明あたりの屋。
奴屋の圓形が景たゞやくある。びびりあり。又豪をす。
ト女色うなじ色わけまつて娘もやめしきさんど。さうりともも
あ。女あと今義がそらぬるかと目をアキバしてあがに
アモ等に馬はめど。捨。お水洗ひひ發あて。但事す。食く。あ
風。竹屋の風せもぬ。平日は少く。小女良根。根。みと。おの
か。ん。掛。か。今義やさしく。す。か。う。り。又。す。
風。金。あ。ミ。お。げ。り。そ。あ。い。ほ。う。そ。や。え。東。れ。社。人。を。い。そ
朝。よ。お。日。の。う。つ。と。ぬ。り。ゆ。今。義。何。む。も。れ。が。
ゆ。の。う。と。あ。こ。と。も。と。あ。の。方。を。そ。か。ね。た。又。あ。と。う。す
き。お。え。こ。や。ほ。た。そ。そ。お。ち。き。と。け。り。あ。お。す。り。あ。る
お。あ。ひ。と。見。を。お。施。け。く。ま。せ。り。と。三。階。う。四。集。

まくは儀さうとひまうかをもじ。今義教院の爲めに
ありが取と書ひ。わきとのぞゆきくあらも原。
一筆と書いて馬の尾づにこうと付縁とくとあるので。
ひるうちふ風情ゆくゑの方へゆりぬ。一旦人の意を
うそつうども。どくは佛神ものうそすゆへ走。
ゆゆのとくまえの者の方お情うへ肩まくね身に
をわゆ。しげときをいじゆあるが下向よひ。とゆれ
居りてゆきとゆき。何うねとあくまきをせし不思議の落着
めくゆく。何うねとあくまきをせし不思議の落着
く。身女姿あくふ。今後うへゆよ。お情もやお身へは世
れ捨まい。どうにかと東よひ。もめぐれにまくねとまく
こまくねれいひとゆく。がむらへねよひゆり。ど。宛

ひそめこの動れとあるとば。よれすなうべあわりさ
うぬれあるとど。立ほのひらへあらぬ。じよともあをと
あく。とまくやしやしと女よたひしと。妻の我縁をもと
はりとせくあふぬ色修け。あそびくふまうがよ。ま
てんうと。うや殺ぞう。もは。ももくえんにうよ。ま
と。お作のとど。ああらん。ましくもとくわとく。とく
みりぬ。もとく。あ津の八丁目までもありぬ。何とう志
もとく。みとく。あく。免ひゆのあき。十文字。かとく。あ
了。今義山と。到り。う。あき。義の魂と。う。あ
ぬ。義をとあい。と。夜のあとのわめりひ。夜。ま
なく。夏のと。もとく。う。動れ。ひ。く。ひ。あ。と。あ。う。が。き

よつと多ひ天よちうひ一七日のえど。九月。ういま
息第迎食。こいひつもに佛聞れど。わがやも夜の音浮ふ。
今我こそ國の事と。どうりゆけ。玉鏡。もそくふ鏡。も
と下す。一人、蒙み。まちりひ。まとほの扇。ども里正
もれ。見る男の聲。うちもうつまでもうう。ぬけへ。ありたの
鳥。今夜よ。河粟田に。山科は。さうり。よき。馬乃
通事。とひ。尾。にあやさ。二年。まとも。下り。まよ
ひよ。何く秋。はる。あま。内。を。さう。夜。深。よ。寢。を。お。び。海。の。お
も。あ。き。ふ。か。お。き。あ。く。み。と。ま。ご。ま。く。え。坐。ゆ。寝。を。あ
き。お。連。と。ま。く。よ。き。う。じ。わ。お。き。じ。る。三。案。の。鷹。よ。此。あ。き。あ
き。よ。春。と。候。ひ。と。と。う。が。と。う。ぐ。ひ。あ。ね。夜。な。れ。お。と。し。む。春
あ。事。わ。お。せ。お。む。お。き。お。き。お。き。お。き。お。き。お。き。お。き。お。き。お。き。

とまああれば。はれなのへもとまきり。ひるみがく。を案め
鶴と鳥さりげて。すむよ。さくがま。一里のゆ取り
みよた神さのゆきよ。あは下長恩よい。ほへ。下望

御文庫

國朝

とすまへばいばみのへをとせり。しるべがくとそゑせん
鶴と鳥とわいてうてあり。どもあがま一生のや樂
まよた神えのゆきよもあな長恩よいは下へ望
はるのあか
角の底
まくはく能面くも今翁ぐひひす。因に行院道
りひとうち。タアはあたとととさがまほとひき
ぞ追ねわんとひきとくろに仓库の八丁まであり。齋家
もあせんと十文金の内よへまれべ。鷹合とくもすと
見て宿屋一家ぐどうきて。新よめよとりせく。新す
やくもす。されば。今翁をちらか。うかごそ。新すと
しる翁の身よあまりて。びとを。新すもじよ。新じて
ある多きの身合を。ゆとく。今翁をどうとく。今翁

而翁の只あるものゆゑしと。十月より後三月をまことに
一きえ鹽で。ともどもあらう。ほどのあらぶゆに。かく
み方の。よのあらうがに。かくして。はとたゞぎ。希也
さりが夜などあらよん。きよらを。まつらの。萬風也
とまほくと。敵がくを。おるのせうもくと。まわせん。や
都ねく。奉うがる。まゐる。ゆのすせて。しますと。夕
書うが。こくし。寔よ。夜。あら。ゆか。ば。不。よ。い。よ。く。る。ゆと
やひゆく。書。生。そ。ま。そ。へ。ら。せ。ぞ。歎。鳴。え。せ。と。信。と
とくの。し。だ。わ。い。そ。や。か。れ。と。幸。い。御。食。の。教。へ。る。ゆ
か。の。が。風。と。ま。し。じ。要。と。よ。り。さ。か。か。の。よ。そ。も。心。かわ
ら。が。う。り。お。ん。と。ご。く。び。く。げ。無。難。じ。と。ぐ。この。わ。す。る
え。も。雪。え。の。信。ぞ。 御前義經記卷二

